

改訂版 序

『超実践マニュアル 医療情報』の初版を発行したのは2007年8月であり、約10年が経過しました。その当時は、多くの医療機関がフィルムレスをはじめ情報の電子化に試行錯誤し、いろいろな意味の汗を流していました。

今や情報の電子化は当たり前であり、1日に250京バイト以上の情報が世界中で生成され、YouTubeには1分間あたり300時間（12日半）分のデータがアップロードされています。診断画像においても1日に700テラバイトほどの情報が生成されていると言われています。2007年と比較して情報のVolume（容量）、Velocity（頻度・スピード）、Variety（種類）は桁違いになっています。さらに情報を利用するにあたってはVeracity（正確性）、Value（価値）が当然求められます。医療においては、この2点が不十分・不足であることは、患者の生命に危機が及ぶ可能性もあり致命的といえます。

また、サイバー攻撃の脅威などが私たちの生活に深刻な影響を及ぼしています。そのため医療機関には情報を守るということも求められ、「情報セキュリティ」への対応として物理的、技術的な配慮が高度に要求されるようになってきています。もちろん人的な配慮も必要であり、ここには「教育」というものが必然的に求められています。

このような社会的・環境的な変化やそれに追隨する法規制の変化、および医療情報系のシステムの革新的な進展などもあり、本書の改訂を多くの方々から熱望されました。そこで、内容の刷新なども含め約2年の改訂作業を終えましたので、いよいよ本書を皆様のお手元にお届けします。

本書の読者の苦い汗が、一粒でも減ることを筆者一同望んでおります。

2017年3月 吉日

放射線医学総合研究所 奥田 保男